

# JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



2面

秋田県で4年ぶり  
青空講習会

(秋田県本部・耕種資材部)

4面

大分県で全国の大学生と  
「91農業」

(耕種総合対策部)

Web版  
JA全農ウィークリーは  
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



## 秋田県で4年ぶりに青空講習会

全農技術主管・星信幸氏が大豆圃場の改良などを提案

秋田県本部・耕種資材部

秋田県本部と耕種資材部は9月8日、JA秋田おぼことJA秋田ふるさとの青年部員、JA職員の計23人を対象に4年ぶりとなる青空講習会を開催しました。

講習会では農事組合法人中仙さくらファームの大豆圃場を借り、生育が良好な圃場と生育不良な圃場の土壌断面をそれぞれ観察・比較しました。

生育不良圃場に対しては、講師の星信幸氏（全農技術主管）が全層心土破砕機



大豆栽培圃場で土壌断面を観察する参加者

「カットブレイカー」による心土破砕、有機資材と石灰資材の施用、中耕培土の見直しなど具体的な改良方法を提案し、参加者の関心を集めました。

参加者からは「土壌の種類による根の違いが分かり参考になった」「果樹でも講習会を開催してほしい」などの意見・要望が上がり、活発な意見交換が行われました。

今後同様の講習会の水平展開を通じて、生産性を向上させる健全な土づくりを推進していきます。



生育不良圃場の土壌断面（心土の下にれき混じりの粘土層が分布）

News!



## 羽田空港第1ターミナルのバナー広告を更新

幅広い世代に向け「農協シリーズ」もアピール

広報・調査部

全農は10月1日、羽田空港第1ターミナルに掲出中のバナー広告を2023年度下期デザインへ更新しました。

2022年度から掲出を

開始した、羽田空港第1ターミナルのバナー広告について、今回で3度目の更新。バナー広告により空港を利用する幅広い世代に対して、本会の社会的役割や国産農畜産物の消費拡大についてPRしています。

リニューアル内容としては、「ニッポンエール」のバナーに代えて「農協シリーズ」のバナーを掲げて農協シリーズ商品の訴求を行います。

「食と農を未来へつなぐ。」のコーポレートブランドメッセージのバナーは、本会の認知度・好感度向上を図るため引き続き年間を通して掲出します。さらに「JAタウン」のバナーについても、本会の運営する産地直送通販サイトとしての認知度向上を図るため秋冬デザインに変更して継続します。羽田空港へお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。



「農協シリーズ」のバナー広告(左)と「JAタウン」のバナー広告(右)

News!

## 新米「ふくまる」をプレゼント

### JAグループ茨城として初のTVer広告で県産米の消費拡大を促進

茨城県本部



新米「ふくまる」2kg

期間は、JAグループ茨城としては初となる民放公式テレビ配信サービスTVerでのCM動画を放送。幅広くキャンペーンを紹介し、県産米の消費拡大を目指します。

キャンペーン  
サイトは  
こちら



キャンペーンは物価高騰やコロナ禍で、生産・販売に大きな影響を受けている生産者を応援することを目的としています。消費者へ改めて県産米の知名度の浸透や安定購入の動機づけを図ります。応募者の中から抽選で800人に、県オリジナル品種「ふくまる」の新米2kgをプレゼントします。

茨城県本部を含むJAグループ茨城は、県産米の消費拡大を目的に「おいしい新米できました」茨城県産新米プレゼントキャンペーンを11月10日まで実施しています。

News!

## 京都で関西茶品評会の出品茶販売会

### 合計落札額は昨年を500万円以上上回る

京都府本部

茶の品質を見極める  
茶商ら



5茶種(普通煎茶116点、深蒸し煎茶41点、かぶせ茶43点、玉露44点、てん茶87点)の1kg当たりの平均落札単価は、昨年対比136%の2万6573円となり生産者の励みになる価格で取引されました。

販売会には茶業者84社140人が参加。5茶種で計331点、数量1346・09kgが出品され、合計落札額は3577万246円となり昨年を500万円以上上回る結果となりました。最高値をつけた茶は、農林水産大臣賞を受賞した京田辺市の山下新貴氏の玉露で、1kg40万888円でうおがし銘茶(株)が落札しました。最多額落札業者は、(株)丸久小山園となりました。

京都府本部は9月7日、JA全農京都宇治茶流通センターで第75回関西茶品評会出品茶の入札販売会を行いました。

News!

## ひろしまクロスカントリー大会に協賛

### 「藻塩はっさく水」「藻塩レモン水」を提供

広島県本部

スタートの合図とともに  
駆け出すランナー



今後、スポーツを頑張る人たちに「ひろしまの食」を通じてサポートしていきます。

自然豊かな道後山高原を駆け抜ける大会で、小学生が走る1kmの部から、トップアスリートも走る8kmの部まで全国各地からランナーが参加しました。

メインスポンサーである広島県本部は、3kmの部のスターターを務めたほか、ゴールしたランナー全員に「藻塩はっさく水」「藻塩レモン水」を提供しました。同飲料は、広島県産のハッサクやレモンに「海人の藻塩」を加えて飲みやすく仕上げられており、作業や運動後の水分・塩分補給におすすめです。

広島県本部は、8月19日に開催された第24回ひろしまクロスカントリー大会に協賛し、参加したランナー計1010人に県産飲料を提供しました。

# 大分県で全国の大学生と「91農業」

## 文科省選定の学生育成プロジェクトと連携 カボスやキャベツ収穫などの労働力支援

全農は9月4～8日、大分県内で関東・関西・九州の全国から参加した9人の大学生と「91農業」に関連した労働力支援の取り組みを行いました。1日目はオリエンテーション、2日目はカボスやキャベツの収穫などの農作業と農泊、最終日は農業関係企業の視察を行いました。



オリエンテーションで自己紹介する学生



カボス収穫に励む学生

【耕種総合対策部】  
耕種総合対策部は経団連が実施する「地域協創アクションプログラム」に参加し、「91農業」を紹介したことをきっかけに、文科省が選定する学生育成プロジェクトの事務局とつながりを持ちました。その後、事務局から「プロジェクトメンバー」の中で農業分野に高い関心を持つ学生に呼びかけました。

持つ学生に実際に農作業・農泊体験をさせられないか」という相談を受けたことから今回の労働力支援の企画がスタートしました。元々学生育成プロジェクトの合宿が大分県別府市で予定されており、それに合わせて大分県で学生を受け入れることを決めました。

受け入れ先となる大分県本部を中心に、福岡県本部・耕種総合対策部が連携して企画の検討から当日の運営までを行いました。全5日間の行程は基本的に学生の要望を100%受ける形で企画を練り上げました。また、本会だけでなく、大分県における労働力支援事業のパートナー企業である(株)野菜アグリをはじめ、関係団体や取引先にも協力していただきながらの運営となりました。

学生からは、「(カボスやキャベツの収穫を手作業で行うことに対して)想像以上に作業がアナログだった」という意見もありましたが、「農業の大変さを実感できた」「日本の食文化に触れる良い機会になった」「農業に対し自分たちに何ができる



企業の説明に耳を傾ける学生たち

か考えるきっかけとなった」といった前向きな感想が多数寄せられました。学生にとっては実際の農業現場を学ぶ良い機会となり、本会にとっては今回の取り組みが多様な方々に農業に関わってもらうという「91農業」の実践の場となる有意義なイベントとなりました。



91農業  
キョウイチノウギョウ

全農は農業関係人口増などを目的に、「あなたのライフスタイルに農的生活を1割取り入れませんか?」をコンセプトにした「91農業」の普及啓発に取り組み、他産業・一般の方々に向けた農業参加の訴求を行っています。

# J A アクセラレーター (第5期)

## 採択企業紹介③

Ag Venture Lab (アグベンチャーラボ) は、スタートアップ企業と J A グループの事業共創の取り組み「J A アクセラレーター 第5期」で10社を優秀賞として採択しました。今号では2社を紹介いたします。

【経営企画部】

## 水稲の土中施肥技術(深肥)による省力化と環境負荷低減の両立を目指す

代表の佛田利弘さん(株)ぶった

農産)が2023年に創業したスタートアップで、革新的な水稲施肥技術の開発・普及による効率的施肥と環境負荷低減の両立を目指しています。現行の水稲栽培では、田植えと同時に緩効性被覆肥料施肥により省力化などが図られていますが、被覆殻の海洋流出による環境への影響が

課題となっています。

同社は、田植え機に装着するアタッチメントを活用した粒状二段施肥法により、水田表層と土中への同時施肥を実現し、生産性を損なうことなく、被覆肥料に頼らない水稲栽培の実現をめざしています。

J A アクセラレーター期間中の11月7日には、有識者による情勢報告や同社技術実装の可能性についての意見交換を目的としたWEBセミナーを予定しています。J A グループ関係者も参加可能ですので、ぜひご登録ください。



田植え機による同時施肥試験

ご参加登録はこちらから



WEBセミナー開催日  
11月7日(火)

登録締め切り日  
11月5日(日)

## 株式会社RelieFood

## 食物アレルギーの心配がない菓子ブランド 特定原材料で食のバリアフリーを実現へ

高校生の加納颯人さんが代表を務める2022年に創業したスタートアップです。加納さんの

家族が重度の食物アレルギーを持つっており、「食物アレルギーのある人もない人も食を共有し楽しめる世界をつくりたい」という思いから立ち上げました。アレルギーフリー(特定原材料など28品

目不使用)&ヴィーガンお菓子ブランド「Issa Kitchen Tokyo」を展開しています。

J A アクセラレーターの支援期間では、事業戦略策定サポートや高価格帯ホテル・旅館などへの販路開拓、製造拠点の確保に向けた取り組みを支援しており、都内外資系ラグジュアリーホテルでは来月からの導入が決定しています。

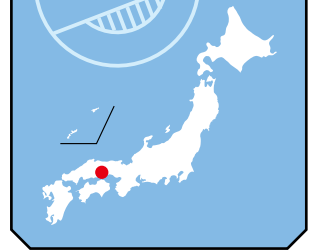


食物アレルギーがある方も食べられるスノーボールクッキー

# Issa Kitchen

ISSA KITCHEN TOKYO

「Issa Kitchen Tokyo」のロゴ



## JAと生産者をさまざまな角度から支援

# 頼られる事業を共に創る

岡山県本部は、JA支援の一環として、EDI（電子データ交換システムの導入）、営農指導員を対象とした営農指導の強化研修に取り組んでいます。さらに、「大型特種自動車（農耕車限定）技能講習会」を実施し、生産者への支援にも取り組んでいます。

### 購買事務にEDIを導入

JAでの購買事務にかかる負担は大きく、職員が出向く体制を強化する上での課題となっています。

この解決に向けて2021年9月に県内2JA・中央会・電算センター・



エンダイブ生産者の圃場でのGH農場評価実践研修

県本部で「EDI導入プロジェクト」を発足し、システムの構築を進めてきました。

EDIシステムを導入することで、JAが作成した発注データを県本部と取引先で共有・活用することが可能になります。さらに受発注や伝票起票など

の手間を省き、JAでの受け入れ処理もバーコード納品書で対応することで、事務の効率化と合理化につながります。

県本部では、24年4月の本格稼働に向けシステムの構築や取引先への対応を進めています。

### 「頼られるJA」へ営農指導強化

もう一つのJAの課題として挙げられるのが、営農指導事業の強化です。この課題に対して、県本部ではJA晴れの国岡山と共同で営農指導員を対象とした研修会を22年から実施しています。

4年間のカリキュラムを組み、1年目はグリーンハーベスター（GH）農場評価講習会の受講と資格取得。2年目は土壌と肥料、3年目は農薬についての研修を実施。4年目には、新規就農希望者への対応ができることを目標に、資金と経営についての研修を実施予定です。また、2、3年目は、GH農場評価の実践研修も併せて実施し、実際に県内生産者を訪問。農場での



参加者にトラクターの乗車手順を教える全農職員

栽培管理や衛生管理、労働安全、環境保全などの状況を生産者とともに確認します。

GH農場評価の実施は、生産者への支援にもつながっています。

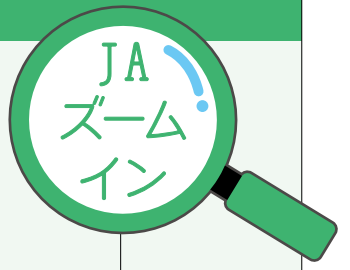
### 生産者の大特免許取得を応援

大型特殊自動車（以下大特）に分類される農業機械が公道を走行するには、大特免許が必要です。

そこで、県本部は、岡山県や中央会と協力し、21年から生産者の免許取得を支援する「大特（農耕車限定）運転技能講習会」を実施しています。

同講習会は、試験を含めた3日間です。大特の特の免許をもった県本部職員や中央会職員が講師を務めることで、比較的安価な受講料で取得に向けた支援を行います。

岡山県本部は、今後も、生産者に頼られる事業をJAと共に創っていきます。



# 「会津よつばブランド」確立へ

## 消費地との連携さらに強化

JA会津よつばの管内である会津地域は福島県の西



東京での合同トップセールス「会津夏祭り」

部に位置し、西に越後山脈と東に奥羽山脈に挟まれ、鶴ヶ城・東山温泉・飯盛山といった観光地を擁する地域です。会津地域の米や野菜、果物などは肥沃な大地と清廉で豊富な水、そして盆地特有の寒暖の差が大き



「会津夏祭り」には平野レミさんも参加

い気候など、農業に適した条件を受け育てられています。中でも、会津が誇るブランド米である「コシヒカリ」は、大粒で強い甘みと香りを持つ味わいで、全国で人気があります。

### 「極上の会津米」常に「シンカ」改善

米穀事業では、日本トップクラスの米産地を目指す「極上の会津米」取り組みの一環として、生産者へ食味のフィードバックを行っています。その中で、優良事例を発掘し「極上の会津米栽培暦」の随時見直しを行い、常に「シンカ」（進化・深化）改善を行う産地を目指して取り組んでいます。他にも数多く存在する魅力的な農畜

### JA会津よつば（福島県）



管内17市町村長と共に東京でトップセールス

農畜産物のPRも盛んに実施しています。8月には会津地方17市町村長とJAが連携した合同トップセールス「会津夏祭り」を東京都で開催しました。イベントでは、会津

概要	2023年2月28日現在
正組合員数	2万5448人
准組合員数	1万9933人
職員数	1023人
販売品取扱高	202億9千万円
購買品取扱高	68億9千万円
貯金残高	3171億4千万円
長期共済保有高	1兆2458億9千万円
主な農産物	水稲、トマト、キュウリ、アスパラガス、生柿、リンゴ、宿根カスミソウ、トルコギキョウ、リンドウ

産の農畜産物を使った平野レミさんのレシピ披露や青果物・花き・食肉市場関係者、米穀卸関係者、消費者との交流などを行いました。今年試食や飲食も復活し会津地方の農畜産物を存分に堪能していただきました。



「極上の会津米」ののぼり(右)と「極上の会津米」のポスター



# 「東北産米100%使用のものも2L」 6万6000本を限定販売

シールにニッポンエールのロゴ 米の消費拡大を応援



東北産米100%使用のものも(内容量2L)

全農は、「のものも」を販売する大関(株)とのコラボ商品として「東北産米100%使用のものも2L」を共同開発しました。東北エリアの量販店などで6万6000本の数量限定で発売します。【営業開発部】

同商品は、米のうまみを感じながらも、すっきりとした後味が特長です。パッケージ上部のスタンドシールにニッポンエールのロゴを配置し、「お

米どころ東北地方を応援する」を合言葉に、大関の商品ブランドである、のものもとニッポンエールのコラボ商品を発売することで、東北産米の消費拡大と東北経済活性化の一助になることを目指しています。

全農は、今後もニッポンエールを通して、企業や全国の産地・JAと連携した商品開発に取り組んでいきます。

## GH農場評価員養成講習会を開催

下期は11月1日から、参加費無料で募集中

全農はJA全中と共同で、JAグループ職員を対象としたグリーンハーベスター(GH)農場評価員養成講習会を開催します。この制度は、農水省から国際水準GAPガイドラインに準拠した制度として認定されており、JAグループでも「GAPをする」手法として受講を推奨しています。【耕種総合対策部】

講習は基礎講習会(2日間)と実践講習会(1日間)があり、基礎講習会ではGAPの基礎からGH評価制度の内容を習得します。実践講習会ではGAPの取り組み状況を点数で評価し、生産者へフィードバックする技術を学びます。合わせて3日間の講

習会を修了し、最終日の試験に合格するとGH評価員の資格が得られます。今年度は無料講習会として開放し、参加者を募集しています。

講習会の詳細や  
申し込みはこちらから



下期開催のGH評価員講習会概要

### 基礎講習会(2日間)

- 2023年11月 1~ 2日(オンライン開催)
- 2023年11月21~22日(オンライン開催)
- 2024年 1月18~19日(オンライン開催)

### 実践講習会(1日間)

- 2023年11月10日(宮城県:JAビル宮城)
- 2023年11月17日(新潟県:JA新潟ビル)
- 2023年12月 1日(神奈川県:全農当農・技術センター)
- 2023年12月 8日(岡山県:全農岡山県本部)
- 2024年 2月16日(神奈川県:全農当農・技術センター)
- 2024年 2月22日(大阪府:大阪JAビル)



JA全農の産地直送通販サイト

### 近江の味彩

2023年産「みずかがみ」の新米が販売中です。

滋賀県で開発された「みずかがみ」は、美しく輝く豊かな琵琶湖の水を連想して名付けられました。県の「環境こだわり農産物認証制度」に基づき、農薬や化学肥料の使用量を通常の5割以下に減らし、琵琶湖をはじめとする自然環境に配慮した技術で栽培されています。

炊きあがりには白く光沢があり、程よい粘りで、かみしめるとまろやかな甘みがあります。おにぎりや弁当など、冷めてもお米本来のおいしさを味わうことができます。



「2023年産」滋賀県産 みずかがみ  
環境こだわり米 5kg...3620円(税込み)

▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)

ご注文は  
こちらから

